

医療系学生が働きかける、認知症当事者及び家族介護者、そして一般市民に向けたオンライン健康増進教室

末松 三奈 ●名古屋大学 大学院医学系研究科 地域医療教育学講座 特任講師

2022年 オンライン健康増進教室 (コロナ禍における認知症との関わり方)

9/21 世界アルツハイマーデーをご存知ですか？
9/10 に 医療系学生が「オンライン健康増進教室」を開催します。

コロナ禍でも、人との交流はとても大切です。
オンライン健康増進教室に参加して、
認知症について、正しく学び、
より健康で幸せな毎日を過ごすための、
工夫を考えませんか？

協働団体: 名古屋大学地域医療教育学講座, 名城大学薬学部,
一宮研伸大学看護学部, 名古屋学芸大学管理栄養学部,
「認知症の人と家族の会」 愛知県支部



2022年オンライン健康増進教室参加者募集のポスター

1. 背景と目的

2020年以降、新型コロナウイルス感染症の流行により、認知症当事者および家族介護者は、デイケアや認知症カフェに行く機会が減少し、より困難な状況が続いている。そこで我々は、コロナ禍で進んだオンラインの情報伝達ツールを用いて、認知症当事者および家族介護者、そして一般市民にも届けられるオンライン健康増進教室を医療系学生とともに検討・実施する。

遠隔でのコミュニケーションが可能となる点において、認知症当事者や家族介護者においてもその価値は高いと考えられるが、オンラインでの健康教育の効果や課題については、あまり検討されていない。

本研究の目的は、多職種の学生による認知症をテーマとした健康増進教室を、オンラインで行うことの可能性や課題について受講者へのアンケートおよびインタビューを通して検討することである。

2. 取り組みの方法

名古屋大学地域医療教育学講座は、名城大学薬学部、名古屋学芸大学管理栄養学部、一宮研伸大学看護学部とともに、医療系学生

による糖尿病教室、あるいは健康増進教室を実施してきた。特に、2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインで健康増進教室を実施した。2022年は、この経験を基に「認知症の人と家族の会」の協力を得て、認知症当事者および家族介護者、そして一般市民に向けたオンライン健康増進教室を医療系学生が企画・実施する。

このオンライン健康増進教室に参加した認知症当事者および家族介護者、一般市民に、オンラインでの健康教育の効果や課題についてのアンケートとインタビューを行う。

3. 期待される成果

教育プログラムの効果として、医療系学生は、「認知症の人と家族の会」や認知症当事者・家族介護者からその視点を学ぶことができ、将来、医療福祉現場で活躍する際に役立つ。

また、医療系学生が行う健康増進教室の受講者である認知症当事者・家族介護者、そして一般市民は、コロナ禍の新たな生活様式においても適切な健康行動を取れるようになることが期待される。さらに、市民参加型多職種連携教育として我が国の医療人教育への市民参加を推進することも期待される。

研究から得られる効果として、オンラインで行う健康教育の可能性や課題について明らかとなり、コロナ禍でも伝えたい人により適切に伝えられるようになる。

啓発効果として、教室受講者だけでなく、運営側である学生・教員も共に認知症や認知症介護について啓発され、「認知症フレンドリー社会」を自らがつくっていくのだという共通認識を持つことが期待される。